

## 教育施策

ICTを活用した学びの体制づくりによって  
近未来キャンパスの“夢”に近づく。

「ICTを活用した学びの体制づくり」は、安心・快適なキャンパスを基盤として、教員と学生、学生相互のコミュニケーションを活性化し充実することを支援する取り組みです。その“夢”に限りなく近づいている、岐阜大学の様子をご紹介します。

※ICT:Information and Communication Technology (情報通信技術)

Kato Naoki  
加藤 直樹  
総合情報メディアセンター 教授

## ICカード学生証の可能性

安全・快適なキャンパスライフを実現する“パスポート”。

本学では、平成16年4月から学生証及び教職員の身分証をICカード化し、図書館への入退館、図書貸出、在学・学籍などの証明書発行、教育用コンピュータの認証などに利用しています。他大学では最近になって進められていることを考えれば、本学はとてもし早い時期に実現したことになります。学生証のICカード化は、安全・快適なキャンパスライフを実現するための基本的な取り組みに位置づけられています。

## ○建物や教室などへの入室

学生証を入室の鍵として利用します。建物の夜間入館やセキュリティが重要な部屋への入室は、誰に許可するかが決められており、学生証に記録された情報を読み取るため、不審者の侵入を防ぐことができます。現在では学内の160

か所以上に設置されています。

○貸出や証明書発行などのサービス  
学生証を利用し、図書館の本の貸出・返却や自動発行機で在学証明書・学籍証・卒業(修了)見込証明書が発行されます。

○個人認証によるセキュリティ強化  
300台の教育用コンピュータの利用には、学生証による個人認証を併用しています。

○出席情報の記録  
平成20年度からは全学共通教育棟において、学生証を利用した出席情報の記録も開始しました。

○食堂・売店での支払い  
平成21年度以降には、食堂や売店での支払いができるように準備を進めています。

○各種学習支援システムの利用  
「教育支援システム」「語学学習システム」「学生生活支援システム」「図書館ポータル」「電子メールシステム」など、学習支援システムの利用認証は、大学が発行するIDによって統合されており、IDとパスワードがいわば“パスポート”になるのです。



学生証



## 学生情報の収集

学内の情報は自宅のコンピュータや携帯電話でいつでも確認。

日々のキャンパスライフにおいて重要なのは、授業に関する情報の連絡でしょう。授業の課題の確認や連絡、休講、お知らせや呼出などは、自宅からインターネットを利用して確認することができます。また、携帯電話を利用した情報収集にも対応し、お知らせや休講・補講情報、緊急連絡先や各種問い合わせ先の確認、就職活動支援情報が利用できます。電子メールも携帯電話で確認できます。

## 授業資料や自学習のためのネットワーク活用

キャンパス内外から自宅まで、どこでも総合的に授業を支援。

授業でのネットワーク利用は最も力を入れている取り組みのひとつです。大学の講義は、90分の授業時間はもちろん、その2倍程度の時間を予習・復習や課題取り組みなどの自学習にあてる必要があります。そのために、授業時間以外も含めて総合的に授業を支援する情報システムとして「AIMS (Academic Instructional Media Service)」があります。「AIMS」はWebブラウザがあればキャンパスの内外からアクセスできます。しかも、履修登録や所属する学部などの連絡確認もできるうえ、各授業に対応した連絡や授業資料、課題提出や掲示板によ

るコミュニケーションをコースとして利用できることが特徴です。学生は、教室での授業時間や授業時間外でもコースにアクセスすることで必要な講義資料などをいつでもどこでも利用できます。

## ○授業時間での「AIMS」利用

学内には、ネットワークに接続された300台の教育用コンピュータに加え、学生が持参したノートブックコンピュータをネットワークに接続するための無線LAN(オープンLAN)を各講義室に整備しています。参考資料や提示資料を「AIMS」で表示しながら授業を受けることができます。また、掲示板での意見交流や小テストによる学習確認のほか、学習資料のリンクを利用した課題調査やグループワークでも利用されます。

## ○授業時間以外での「AIMS」利用

予習・復習や課題取り組みなどは自学習による学習です。「AIMS」を利用し、授業時間外も教員や学生相互のコミュニケーションを継続できることで、充実した学習を実現することができます。

## ○自学習のための教材

「AIMS」ではe-Learningを利用した自学習も実施しています。入学後のガイダンスでは、「情報活用とモラル」という教材を使って全学生が「AIMS」の利用を習得すると同時に、学生生活でも重要となる情報モラルの基礎的事項を習得できるようにしています。このほかにも、語学学習システム「NetAcademy」を利用しTOEIC資格取得のための効果的な自学習を支援しており、取得した資格に対して単位認定を行う制度もあります。

## キャンパスネットワークを活用した大学の「夢」

- ◆パソコンから講義科目を選択
- ◆携帯電話から休講や補講を確認
- ◆ノートパソコンでの受講
- ◆インターネットで講義資料を確認
- ◆学生証での図書館や生協の利用

時間と場所から解放された  
学習の可能性

時間も場所も自由にした「AIMS」は  
大学院でも積極的に活用。

「AIMS」を拡張していくと、自宅などのキャンパスから離れた場所でも授業を受けることが可能となります。

連合獣医学研究科は、岐阜大学と帯広畜産大学・岩手大学・東京農工大学で構成する、キャンパスが離れた大学院です。「AIMS」の利用によって、離れた場所でも同じ授業を受けることを可能にしています。

教育学研究科では、サテライト教室を多治見市・各務原市・大垣市・熊本市などにも開設し、平成19年度からは自宅や職場でも受講できるインターネット型大学院を本格的に開講しています。岐阜県はもとより愛知・静岡・石川・滋賀・福岡・長崎・熊本県の現職教師等が学んでいます。この夜間遠隔大学院でも「AIMS」は積極的に活用され、教育に不可欠な情報システムとなっています。また、オープン科目ではビデオ視聴を中心として掲示板などでの意見交流を実現することで、学習する時間・場所も自由になっています。

「AIMS」は、大学キャンパスという場所に限られていた学習機会を拡張し、時間という制約からも学習を解放しようとしています。この学習のための効果的な教育方法の開発は、まだまだ綿密に行う必要がありますが、社会人の学習を支援する最適な方法と言えるでしょう。

## まとめ

最後に、「AIMS」の利用調査で寄せられた、ある学生の意見を紹介します。

『掲示板の活用は、講義前のレポート提出やゼミの課題提出などにおいて、同じグループの仲間の考えや感想・進行状況などを知ることができて大変勉強になり、励みになります。…(中略)…システムの質の向上というよりは、もっと多くの講義・教官学生間で利用できればいいなと思います。』

ICTは“Information and Communication Technology”、つまり情報通信技術を示しますが、コミュニケーションは、情報と情報、人と情報だけではなく、人と人にもあります。教育においても、人と人のコミュニケーションをICTが支援していくことが最も重要だと考えています。

